

地元庄内に「もっけだのく」好きだから、残していくためにを考える

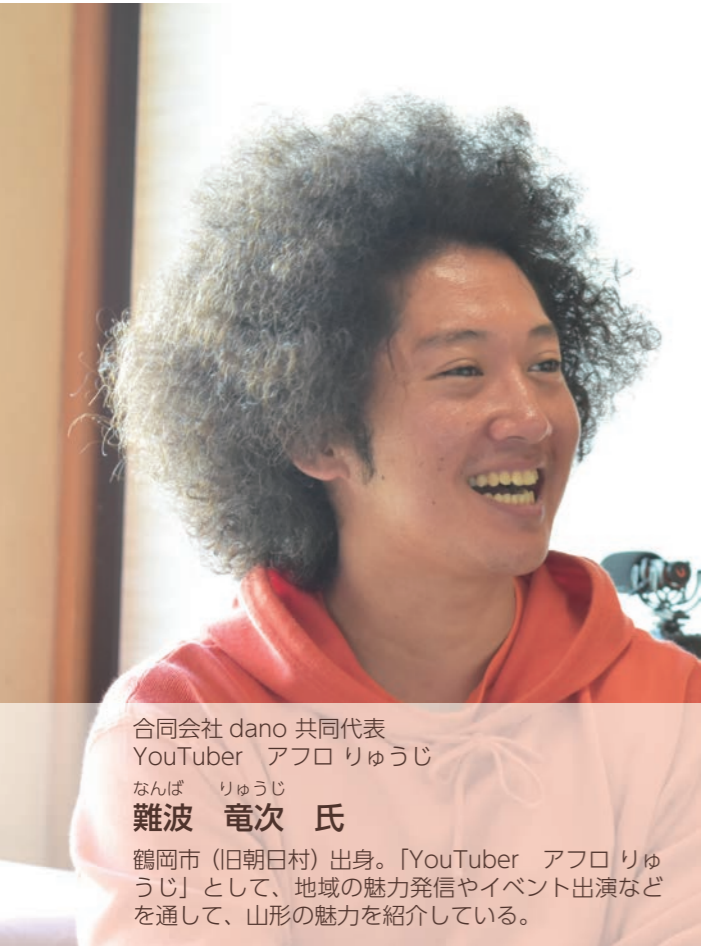
県外へ行く若者も多い中、地元を拠点に活動する3名の若者がいます。今回は「地元で生きる、はじめる、おこす」をテーマに、同級生であり、それぞれ事業を興している佐藤裕太さん、伊藤大貴さん、そして難波竜次さんに、なぜ地元なのか、地元で生きることの魅力やリアルを聞きました。



認定新規就農者
あまらめゲストハウス MOKKEHOUSE オーナー
さとう ゆうた
佐藤 裕太 氏
庄内町出身。25歳で農業を継ぎ、同時期にゲストハウス「MOKKEHOUSE」をオープン。現在は農業を主事業として、事業拡大を図っている。



合同会社 dano 共同代表
いとう ひろたか
伊藤 大貴 氏
鶴岡市（旧朝日村）出身。25歳でUターンして合同会社 dano を設立する。デジタルマーケティングや遊佐高校での場づくり支援などを主に行う。



合同会社 dano 共同代表
YouTuber アフロリゅうじ
なんば りゅうじ
難波 竜次 氏
鶴岡市（旧朝日村）出身。「YouTuber アフロリゅうじ」として、地域の魅力発信やイベント出演などを通して、山形の魅力を紹介している。

佐藤 主な仕事は農業です。今は米や大豆、花、野菜など32ヘクタールを管理しています。実家が農家なんですけど、自分の代で法人経営に切り替えていこうと準備中です。ほかに、余目駅の近くで「あまらめゲストハウス MOKKEHOUSE」の運営もしています。庄内への観光客を受け入れたい、同級生が集まったりするほか、最近では保育園留学の受け入れも始めました。

難波 合同会社 dano を大貴と一緒にやっています。「10年後の、仲間をつくる。100年後へ、念いをつむぐ。」をテーマに仲間づくりやデジタルマーケティングをする会社です。個人の仕事は、「ユーチューバーアフロリゅうじ」としての活動やWEBコンテンツの制作ですね。最近は行政と組んで、ふるさとの魅力を発信するものが多いです。タレントとしてイベントに呼ばれることもあります。

伊藤 合同会社 dano を興して5年になります。主な事業は、情報発信支援、デジタルマーケティングの伴走支援です。さらに、この地域の力を活かし、次世代の可能性を紡ぎだしていくための取り組みとして、山形大学工学部だった大貴とばったり会って。

伊藤 ほんとたまたまね。ばくも竜次が米沢いるの知らなかったし。その時すでに地域活動してたから、竜次を山生向けのイベントに呼んだり、米沢にゲストハウスを作る話があったから、誘ったりしてね。ぼくらが入学した時期は、ちょうど東日本大震災の後で、社会的にいろんな場が開かれていて、成長機会に溢れてたんです。周囲の人から面倒を見てもらいながら、地域に入っていくって、こういう生き方がいいなって。竜次も「地元で何かやりたい」と言っていたから、共通の話題で盛り上がった。だから、共通の話題で盛り上がった。裕太とは、入学式で再会しましたね。1年生の時に地域活動サークル「チーム道草」を立ち上げたのもあって、入学式で成果発表をしたんですよ。そしたら大勢いる新入生の、一番前に裕太が座ってて。「なんでいるの!？」って(笑)。

佐藤 俺は一浪して入ったけど、大貴がいるの知らなかったし、たまたまね。

伊藤 話してみたら浪人時代にいい出会いをしたみたいで、地域活動系の話に乗ってきてくれるのが嬉しくて、ことあるごとに「裕太、空いている？」って。

佐藤 それ嬉しかったな。高校の時は別に仲良くなかったけど、3年間同じクラスだったし、縁がずっと続いていたのかな。自分にとつての転機は浪人時代。通って

て、遊佐町で県外留學生の受け入れを行う「遊佐高校魅力化プロジェクト」のプロジェクトファシリテーターや、対話と内省の場づくりの事業を行っています。さっき竜次から仲間づくりというテーマがありましたけど、雇われていようが起業していようが、自分の物語を自分で生きている、主人公的な感覚の人が増えれば、地域は勝手に面白くなるんじゃないかなと思って活動しています。

伊藤 竜次とは小学生からの付き合い。
佐藤 俺と大貴は高校と大学が同じで、竜次とは同じ学校になったことはないけど、知り合ったのは高校生の時。でも、大貴に紹介されたわけじゃないんだよな。
伊藤 竜次はやっぱり(笑)。ぼくらの高校の学園祭に竜次が遊びに来て、同じテションだった裕太と仲良くなった。
難波 そうそう。裕太との共通の友達もいるし。俺は高校卒業後に就職して、米沢に住み始めたんだけど、1年くらいした時か

いた予備校で、毎朝人生の哲学を学ぶ倫理の授業があつて、自分は何をしたいかを考える時間があったんです。庄内の良いところを学ぶ授業もあって、その2つがあったから、俺はこれからどうやって生きていこうかというのを本気で考えることができたなって。うちは農家だから、地元で貢献するなら、農業を継いで、農業を通じて庄内を元気にしていきたいと思うようになりました。

ゲストハウスづくりでパワー集結

佐藤 ゲストハウスを作ったきっかけは、まあ、大失恋とかもあるんだけど(笑)、自分がゲストハウスに泊まった経験から、農家が農業以外で場を作って、そこに人が集まるのが面白いなという想いがあったんです。だから、失恋の悲しみをバネに走り出して、余目駅の近くの土地付き10万円の物件を買って、とりあえずクラウドファンディングをしました。目的は3つ。庄内の農業を元気にするためには、まず農家が元気にならないといけないというのがひとつ。2つ目が、移住定住を増やしたいということ。そして3つ目が、自分の仲間を増やしたいということ。自分も、ゲストハウスがあることで同じ想いを持った人たちと繋がって仲間を作りたいというのもありました。